

保全ゾーンのイメージ(案)

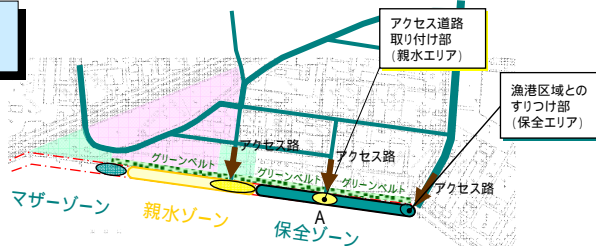
ゾーンのコンセプト

保全をテーマとして整備する。

A.P.+3.0mまでの乱積み部には変化を持たせ、生物の生息空間とする。
(親水部としない)

人の出入りは A の部分のみ、水際にはアクセスさせず中段止まりとするが、小テラスを設ける。

乱積み部の法先には、木杭、転石等による環境向上を図っていく。



標準部のイメージ
(人は護岸に立ち入れない)



アクセス部のイメージ
(中段の小テラスまで下りられる)



7

親水ゾーンのイメージ(案)

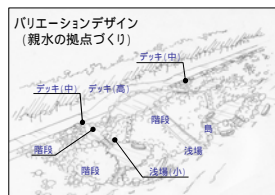
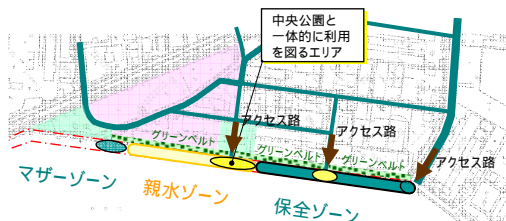
ゾーンのコンセプト

親水をテーマとして整備する。

ゾーン全体に渡って護岸上、水際への人の出入りを許容する。

中央公園の前面はシンボルエリアとして背後地と一体的な整備を考える。

人の出入りを許容するので、護岸の法面、水際については安全面を考慮した工夫を行う。



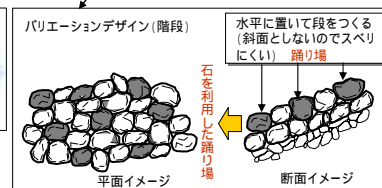
バリエーションデザイン
(親水の拠点づくり)



シンボルエリアの例(階段)



バリエーションデザイン
(小島)



被覆石の置き方を工夫した階段づくりの例
(安全対策でもある利用面への工夫として)



浅場のイメージ



バリエーションデザイン
(砂場)

8